

鎌ヶ谷市こども計画（案）に対するパブリックコメントの実施結果について

鎌ヶ谷市こども計画（案）に対して、皆様からお寄せいただきましたご意見及び市の考え方について、取りまとめたので公表します。
なお、ご意見については、原則原文のまま掲載しています。

1 パブリックコメントの実施概要

（1）募集期間

令和7年1月6日（月）から令和7年2月4日（火）まで

（2）意見数

17件 ※提出者数4名（郵送0名、持参0名、FAX0名、電子メール4名）

2 意見及び市の考え方

次の表のとおり

NO	意見	回答	修正の有無
1	様々な課題を踏まえた「鎌ヶ谷市こども計画（案）」を拝見しましたが、障害を持っている子とそうでない子の間に存在するグレーゾーンや限界知能の子供へのサポートに関して、どのように取り組もうとしているのかが分かりませんでした。 子供はグレーゾーンに属するので、行政からの支援は一切なく、家庭で何とかしてくださいというような対応でしたので、非常に困っております。 人口の14%、7人に一人の割合で存在しているので、避けては通れない問題かと思いますので、是非計画の中に入れるようにしてください。ご検討よろしくおねがいします。	市では、こどもの発達や保護者のご相談に応じて、安心して子育てができるよう、専門職員が発達相談、療育支援・施設支援を行っております。こどもの場合、成長の見通しなどから、障がいの診断がつきにくいため、いわゆるグレーゾーンと言われるお子様も来庁時に相談に来られます。 個々のご家庭の心配ごとに、より深い発達や教育に関する相談など、様々な相談に応じられるよう、職員の質の向上を図るとともに、発達の特性に応じて、関係機関等と円滑な連携を図りながら、今後も切れ目のない相談支援体制を充実させてまいります。 <u>ご意見を踏まえ、本計画の基本方針5「きめ細かな支援が必要なこども・若者・子育て家庭への支援」の政策3「障がい児及び医療的ケアを必要とする児童への支援」内、主な取組「発達相談の実施」（P.78）に上記内容を追記します。</u>	有
2	コロナ禍を経て、人とのふれあいが薄くなり、また、生きる力をつけて欲しいな、と思います。 最近の中学生は、毎日部活の後に塾に行き、10時11時まで勉強している、と聞きます。学力をつけるのは大切ですが、それだけでは生きていけません。生きる力をつける為の何かがあればいいな、と思います。 また、体を動かす、遊べる場所、ボールが使える場所が本当にないので、そういう場所を増やして欲しいなです。よろしくお願いします。	市では、こどもや若者が自分らしく成長し、活躍できる環境づくりを目指して、学校教育の充実や児童生徒の健康・安全の確保に取り組むとともに、生涯学習の推進や青少年の健全育成を通じて、個性を発揮し、お互いを尊重しながら成長できる社会の実現を目指してまいります。 また、市内でボール遊びができる場所につきましては、福太郎スタジアム、各多目的グラウンド、一部の児童遊園、東部児童センターの園庭にあるボール遊びエリアがありますが、今後も市内でボール遊びができる場所を確保するよう検討してまいります。	無
3	1. 今回、PDF版で全113頁となっています。最低限としてPDFはしおり付きで提供されるといいのではないかと思います。これにより、電子的な可読性が向上します。しおり付きP D F は下記が参考になるかと思います。 https://www.antenna.co.jp/pdf/reference/pdf-shiori.html また、昨年、鎌ヶ谷市で実施した他のパブリックコメントでも同様なコメントを多く提出させていただきました。ぜひ、所内で横の連携を図って、効果的な運用を図っていただけるようお願いいたします。	本計画をデータにて公表する際は、PDF にしおりを付ける又は全文一括PDFファイル以外にも、分割版のPDFファイルをダウンロードできるように掲載するなど、より市民が読みやすいかたちで公表できるよう検討してまいります。	無
4	2. P71 施策1 経済的な支援 内容ではなく、恐縮ですが、「遺児手当の支給」に「児童の健全育成及び福祉の増進を図るため、義務教育終了前の児童を養育している父母の一方が死亡若しくは障がいの状態になった場合、遺児手当を支給します。」と記載されています。通常、法文、公用文では1階層のorは、「若しくは」ではなく、「又は」を使うことがルール化されています。このため、「死亡若しくは障がい」ではなく、「死亡又は障がい」と表記するのが適切ではないかと考えます。	ご指摘のとおり、「死亡又は障がい」の表記に修正します。	有

NO	意見	回答	修正の有無
5	3. P21の調査結果によると「家計のひっ迫」が千葉県と比べて、鎌ケ谷市は非常に高くなっているように見えます。しかし、P28の施策の基本方針1、政策3の「経済的な支援の充実」において、法律に定められただけの手当、教育、保育の給付、医療費等の負担軽減、多子世帯対策のみであり、根幹にある家計のひっ迫の具体的対策を実施できていないのではないかと思います。調査によって、「家計のひっ迫」の主たる原因が、医療費等であればそれを負担することは意味があることだと思います。家計のひっ迫が、どれくらいあり、どの費用が負担になるのかの調査とそれにフォーカスした対策が必要だと思います。高校生までの医療費無償化は、アピール効果はあるのかもしれませんが、もともと小さな市で財政も十分でない場合は、本当に、それが家計のひっ迫の対策につながる事が確実でない場合は、別の種類の給付を検討すべきだと思います。	本市では、子ども医療費の助成を高校生等まで拡充、小学校1年生の学校給食費の無償化、多子世帯の保育料及び学校給食費の減免など、市独自の経済的支援を行い、子育てしやすいまちづくりに取り組んでおります。また、経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭の生活と安定を図るため、児童扶養手当や遺児手当等の経済的支援を行うとともに、援護支度金の支給や保育園利用料、放課後児童クラブの保護者負担金の減免などを行っております。 さらに、こどもを抱える生活困窮者世帯は、増加傾向にあるため、上記経済的支援のほか、自立相談支援事業や家計改善支援事業、こどもの学習・生活支援事業などに取り組むとともに、進学に対する支援や高校の中退防止など、様々な支援策を講じることで、多様化・複雑化したニーズに対応してまいります。	無
6	4. P22において、「こどもの権利」が十分守られていないことが調査から明確になっているように見えます。しかし、P25～P27において、こどもの権利が守られていないことに対する具体的対策を明確にしていないように見えます。P22の調査を元にどのような対策をするかをしっかり検討して具体的な施策にしていく必要があるのではないかと考えます。	こども基本法では、全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども施策を総合的に推進することを目的としており、本市のこども計画においても、こども基本法の趣旨や内容を踏まえ、こども計画を広く周知していくとともに、児童生徒の人権意識の向上を図るため、市内小中学校の教員を対象とした研修を充実させることで、教職員の人権意識の向上を図ってまいります。	無
7	5. P31から主な取組みに関して記載されています。継続、拡充など従来から実施している施策も多くあります。しかし、過去の取組に対する評価が記載はなく、計画の実行性に疑問が残ります。過去の取組がよい点、悪い点などしっかり評価、明確化した上で継続、拡大などが記載されるといいのかと思います。なぜ、継続するのか、拡大しなくていいのか、やめなくていいのか？など市民にしっかり公表していく必要があるのではないかと考えます。	本市では、効果的かつ効率的な市政の推進に資することを目的として、前年度の取組（事務事業）について、実施した課題等を踏まえ、今後の方向性など、4つの（拡充、精査・検証、縮小・統合、終了・廃止・休止）基準に基づいた行政評価を行っております。 市ではこども計画を策定する際、実行性ある取組を推進するため、上記行政評価の結果を踏まえ、それぞれの取組に対して、継続や拡充などの区分を掲載しております。 なお、こども施策の実施状況及び課題については、計画内に総括として掲載するとともに、今年度までを計画期間とする「第2期鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画」の4つの基本方針ごとに課題をまとめ、その課題に対応した施策の体型をこども計画に反映しております。	無
8	6. 参加型アプローチの欠如：アンケートは実施して、それを加味して計画にしたことにして、 「パブリックコメント」の実施、「子ども・子育て会議」による審議などを計画していることは認識できます。しかし、参加型アプローチには、ほど遠くなってしまっているように感じます。こども家庭庁などの国の方針でも、こどもの意見をできるだけ収集することが重要視されていると認識しています。 参加型アプローチとは、どうすべきかをもっと議論して実施していただけるといいのかと思いました。	こどもの意見を収集するため、パブリックコメントを実施する際、市内の中学校の生徒及びその保護者に対して、こども計画の目的や意見を求めるリーフレットを配布しております。また、こども計画やこども基本法について、広くこども・若者に周知するため、分かりやすく簡単に読むことができる概要版を新たに作成し、児童センターや放課後児童クラブなどで配布することで、計画策定後もこどもたちの意見の収集に努めてまいります。	無

NO	意見	回答	修正の有無
9	7. 私は町会の役員をしています、市として町会にどのようなことを「こども計画」で期待しているのかを明確にしていただけるといいのかと思います。高齢化社会のため、高齢者が増加していますが、まだまだ元気な高齢者も多くいますし、町会活動などにも参加してもらっています。そのようなパワーを「こども計画」にどのようにするか。入学前のこどもたちは町会行事に参加する場合がありますが、小学生、中学生、高校生がどのようなニーズを持っていて、町会、高齢者がどのような活動ができるのかを議論できるといいのではないかと感じます。	今後少子高齢化が急速に進展する中、こどもや自治会との関わり合いを充実させることが、より重要となると考えております。現在でも、地域交流事業として、各児童センターでは、地域住民との交流を深め、連帯意識を高めるため、自治会や民生委員・児童委員、学校等の関係支援者で構成される運営委員会を開催し、お祭りなどのイベントを開催しておりますが、今後もまちづくりの中心的な役割を担っている自治会等において、こどもや高齢者など世代を超えたイベントの実施やこどもが参画できる活動等について、議論を進めていきます。 <u>ご意見を踏まえ、本計画の基本方針3「社会全体でこども・若者を支えるための環境の整備」の政策1「地域による子育て支援の充実」内、施策2「地域における子育て資源の充実」の主な取組に、「自治会等におけるこどもへの参画等」(P.50)を追記します。</u>	有
10	8. 担当の方々は本書を作成するのにかなり苦勞されて作成されたのかと敬意を表します。しかし、鎌ヶ谷ならではの部分がすこし足りないのではないかと感じています。鎌ヶ谷市は、周囲の市と比べて規模が小さく、予算も少ない。道路事情は非常に悪いが、鉄道網はしっかりしている。市内でまだ自然も、梨畑も多くあり、交通の便も悪いがファイターズタウンなどもある。たぶん、現時点で子育て世代は、間違いなく流山市に住みたいと感じている。流山市にできなくて、鎌ヶ谷市にしかできないこと、周囲な大きな市(松戸、船橋、市川、柏、白井、我孫子、習志野、流山、浦安)を活用した施策などをもっと考えてほしいと思います。	各市の子育て支援の取組みは、財政規模、人口、地域資源や子育てに関連した施設等の状況によって異なりますが、本市の特徴の一つとして、地域のより身近な場所に、地域の子育て拠点となる児童センターを6か所整備し、子ども達の遊び場や、子育て中の親子同士の交流や相談場所として実施しております。 また、貴重な地域資源となる北海道日本ハムファイターズと連携し、子ども達が参加できる野球教室やイベントを実施するとともに、小中学校では、外国語指導助手、学校図書館司書、少人数指導教員、理科支援員、学校サポート看護師など、きめ細かな教育に取り組んでおります。 なお、近隣市も実施しておりますが、子ども医療費の対象を高校生まで拡充することや、小学校1年生の学校給食費無償化、多子世帯の保育料及び学校給食費の減免にも取り組んでおります。 今後も、近隣市の施策を継続的に調査検証し、本市においても実現可能な施策は、計画的に実施することで、子育てにやさしいまちづくりを推進してまいります。	無

NO	意見	回答	修正の有無
11	鎌ケ谷市の経済状況を踏まえ、少子化対策と出生率向上のための具体的な施策と、その実現に向けたイベントや施設の提案を以下にまとめました。 1. 子育て環境の充実 a. 保育所や幼稚園の増設・整備、保育士の待遇改善 ・現状と目標: 鎌ケ谷市では、2024年度に東部地区児童センター（仮称）の設置事業に約4.5億円を計上しています。さらに、2024年度当初予算案では、子育て支援や北千葉道路整備などに重点を置き、一般会計は前年比10.6%増の421億4千万円と過去最大規模となっています。 ・具体的施策: ・施設整備: 今後5年間で保育所や幼稚園の定員を年間50名ずつ増加させる計画を立て、総額で約10億円の予算を確保します。 ・待遇改善: 保育士の給与を平均5%引き上げるため、年間約1億円の予算を追加で計上します。 b. 柔軟な保育サービスの提供 ・現状と目標: 夜間保育や一時保育、病児保育の需要が高まっています。 ・具体的施策: ・サービス拡充: 夜間保育や病児保育を提供する施設を3年間で3か所新設し、各施設に年間約3,000万円の運営費を支出します。 c. 親同士の交流の場を増やし、孤立感を軽減する取り組み ・現状と目標: 子育て中の親の孤立感を軽減するための交流イベントが求められています。 ・具体的施策: ・子育てカフェの設置: 市内に2か所の子育てカフェを設置し、年間運営費として各施設に約1,000万円を計上します。 ・交流イベントの開催: 月1回のペースで親子交流イベントを開催し、年間予算として約500万円を確保します。	本市では、子育てがしやすいまちづくりとして、民間保育所等の整備を行い、平成27年度から10年連続して待機児童ゼロを達成するほか、未来を担う子供たちの健全な成長を支援するため、子ども医療費の助成対象を高校生等まで拡充するとともに、小学校1年生の学校給食費の無償化、多子世帯の保育料及び学校給食費の減免など、子育て世帯の経済的な負担軽減を図っております。 また、子育て環境の充実として、東部児童センターの整備や市制記念公園水遊び場の整備を行うとともに、伴走型子育て支援の実施や産後ケア事業の通所型及び訪問型を開始するなどの環境整備を図っております。 ご提案のいただきました、少子化対策や出生率向上のための施策については、今後施策を展開していく上で、参考とさせていただきます。	無
12	2. 経済的負担の軽減 a. 児童手当の拡充、出産費用の支援 ・現状と目標: 子育て世帯の経済的負担を軽減するための支援が必要です。 ・具体的施策: ・児童手当の増額: 第3子以降の児童手当を月額1万円増額し、年間約2億円の追加予算を計上します。 ・出産費用の助成: 出産一時金を10万円増額し、年間約1億円の予算を確保します。 b. 子育て家庭向けの住宅補助制度 ・現状と目標: 若年層の定住促進と子育て環境の向上を図ります。 ・具体的施策: ・住宅購入補助: 子育て世帯が市内で住宅を購入する際、最大50万円の補助を行い、年間100世帯を対象とすることで、年間約5,000万円の予算を計上します。	上記と同じ回答	無

NO	意見	回答	修正の有無
13	3. 経済的向上を促進するイベントや施設の提案 a. 子育て支援イベントの開催 • 具体的施策: • 子育てフェスティバル: 年1回、大規模な子育てフェスティバルを開催し、育児用品の展示・販売、子育て講座、親子参加型のアクティビティを提供します。年間予算として約1,000万円を計上します。 b. 子育て支援施設の整備 • 具体的施策: • 子育て支援センターの設置: 市内に新たに子育て支援センターを設置し、育児相談、親子交流、子育て情報の提供を行います。初期投資として約2億円、年間運営費として約5,000万円を計上します。 c. 地域経済の活性化 • 具体的施策: • 地元企業との連携: 地元企業と協力し、子育て世帯向けの就労支援や職業訓練プログラムを提供します。年間予算として約3,000万円を計上します。 これらの施策を通じて、鎌ケ谷市の子育て環境を充実させ、出生率の向上と地域経済の活性化を図ることが期待されます。	上記と回答と同様	無
14	また、鎌ケ谷市の税収増加を図るため、ファイターズ鎌ケ谷スタジアムや福太郎アリーナなどの既存施設を活用し、全国からの集客を目指すイベントの開催と交通機関の整備を検討します。以下に具体策、費用、そして見込まれる税収増加についてまとめました。 1. イベント開催による集客策 a. スポーツ関連イベントの誘致 • 全国規模の大会開催: プロスポーツチームの試合や全国大会を誘致し、観客動員を図ります。 • スポーツ教室の実施: プロ選手によるスポーツ教室を開催し、地域住民や全国からの参加者を募ります。 b. 音楽・文化イベントの開催 • コンサートやフェスティバル: 著名なアーティストを招致し、音楽イベントを開催します。 • 地域文化祭: 地元の文化や伝統を紹介するイベントを企画し、観光客を誘致します。 c. 季節イベントの企画 • 花火大会やイルミネーション: 季節ごとのイベントを開催し、家族連れや観光客を集めます。 • フードフェスティバル: 地元の特産品を活かした食のイベントを企画します。	市では、地域の活性化やにぎわいの創出を図るため、多くの方が参加する市民まつりやスリランカフェスティバル、ニコカマフェス、かがやの花火など季節ごとのイベントを開催するとともに、市の地域資源であるファイターズ鎌ケ谷スタジアムがあることで、多くの方が市を訪れております。 こうした各種イベントや地域資源を通じて、市の魅力を発信することで、訪れてよかった、住んでみたいと思われるような方々を増やし、流入人口の増加を図り、税収の増加に繋げてまいります。 また、道路環境や交通機関の整備として、北千葉道路や都市計画道路等を計画的に整備するとともに、公共交通体系の充実を図るため、コミュニティバスなど公共交通の利用促進を図り、誰もが利用しやすく持続可能な公共交通体系を構築してまいります。 ご提案のいただきました、イベントの開催や交通機関の整備等については、今後施策を展開していく上で、参考とさせていただきます。	無

NO	意見	回答	修正の有無
15	2. 交通機関の整備 a. シャトルバスの運行 ・主要駅からの直行バス: イベント開催時に、最寄りの鎌ヶ谷駅からスタジアムやアリーナまでのシャトルバスを運行します。 b. 駐車場の拡充 ・臨時駐車場の設置: イベント時に臨時駐車場を設け、車での来場者に対応します。 c. 道路整備 ・アクセス道路の拡張: 主要施設へのアクセス道路を整備し、交通渋滞を緩和します。	上記と回答と同様	無
16	3. 費用と税収増加の試算 a. イベント開催費用 ・スポーツイベント: 1回あたり約1,000万円（施設使用料、運営費、出演料等） ・音楽イベント: 1回あたり約2,000万円（アーティスト招致費用、設備費等） ・季節イベント: 1回あたり約1,500万円（花火、装飾、運営費等） b. 交通機関整備費用 ・シャトルバス運行: 年間約5,000万円（人件費、車両維持費等） ・駐車場整備: 1か所あたり約3,000万円（用地取得、舗装費等） ・道路整備: 1kmあたり約5億円（用地取得、工事費等） c. 税収増加の見込み ・観光消費による税収: イベント参加者1人あたりの消費額を1万円と仮定し、年間10万人の集客で約10億円の経済効果が見込まれます。 ・宿泊税・消費税等: 経済効果の10%を税収と仮定すると、年間約1億円の税収増加が期待できます。	上記と回答と同様	無
17	4. まとめ イベント開催と交通機関の整備には初期投資と運営費用が必要ですが、全国からの集客により地域経済の活性化と税収増加が見込まれます。具体的な費用対効果の分析や詳細な計画策定が重要です。 税収増加と共に子育て世帯支援子ども生まれたお祝いとして1人当たり300万円の大胆な経済支援可能な社会、生活、経済の安心安全な鎌ヶ谷市になりますよう心よりお祈り申し上げます！	上記と回答と同様	無